



Weekly Market Report

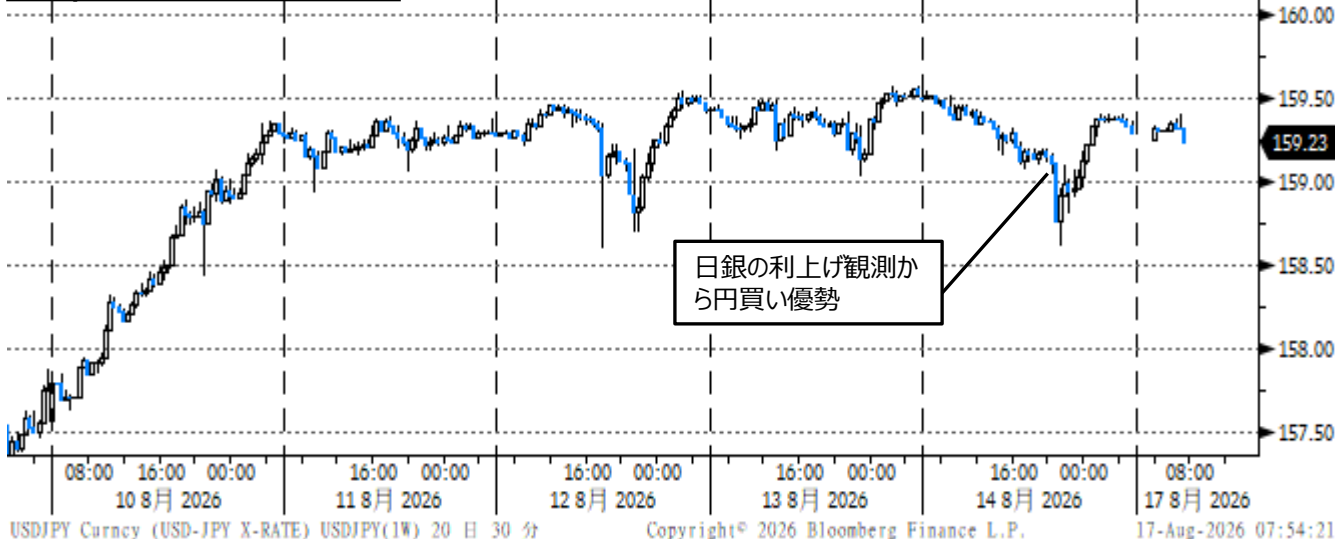
FX, JPY Interest Rate, Topics

Aug 17, 2026

1. 為替相場概況

追加為替介入への警戒感が強い中、上値の重い展開を予想。FOMC議事要旨の内容に注目。

USD/JPY（1週間の値動き）



コメント

(出所) Bloomberg

先週のドル円相場は1米ドル＝157円台半ばから159円台前半まで米ドル高円安に推移。週初は前週末に公表された7月米雇用統計が市場予想を下回る弱めの内容となったことを受け、FRBの早期利上げ観測が後退したものの、中東情勢の不透明感や米CPIへの警戒感を背景に159円台前半まで円安進行。週中から週末にかけては、米CPIが市場予想通りの結果となりインフレへの過度な懸念が和らぎ、FRBが9月会合で政策金利を据え置くと観測が高まったことや、日銀が早ければ9月の金融政策決定会合での利上げを想定していることが伝わり、円買い米ドル売りが増え158円台後半まで円高進行。その後は為替協調介入への警戒感からドル円の上値は抑えられ、159円台前半で越週。今週は追加為替介入への警戒感から上値が重く、158円～161円程度のレンジで推移すると予想する。また、19日公表のFOMC議事要旨の公表にも注目したい。

(市場営業部/加藤)

今週の経済指標（予定）

日付	イベント	予想
8/18(火)	(米国) 7月住宅着工件数	135万件
8/19(水)	(米国) FOMC議事要旨	-
8/19(水)	(欧州) 7月ユーロ圏CPI(前年比)	+2.9%
8/20(木)	(米国) 新規失業保険申請件数	-
8/21(金)	(日本) 7月CPI(前年比)	+2.0%

USD/JPY（5年間）



(出所) Bloomberg

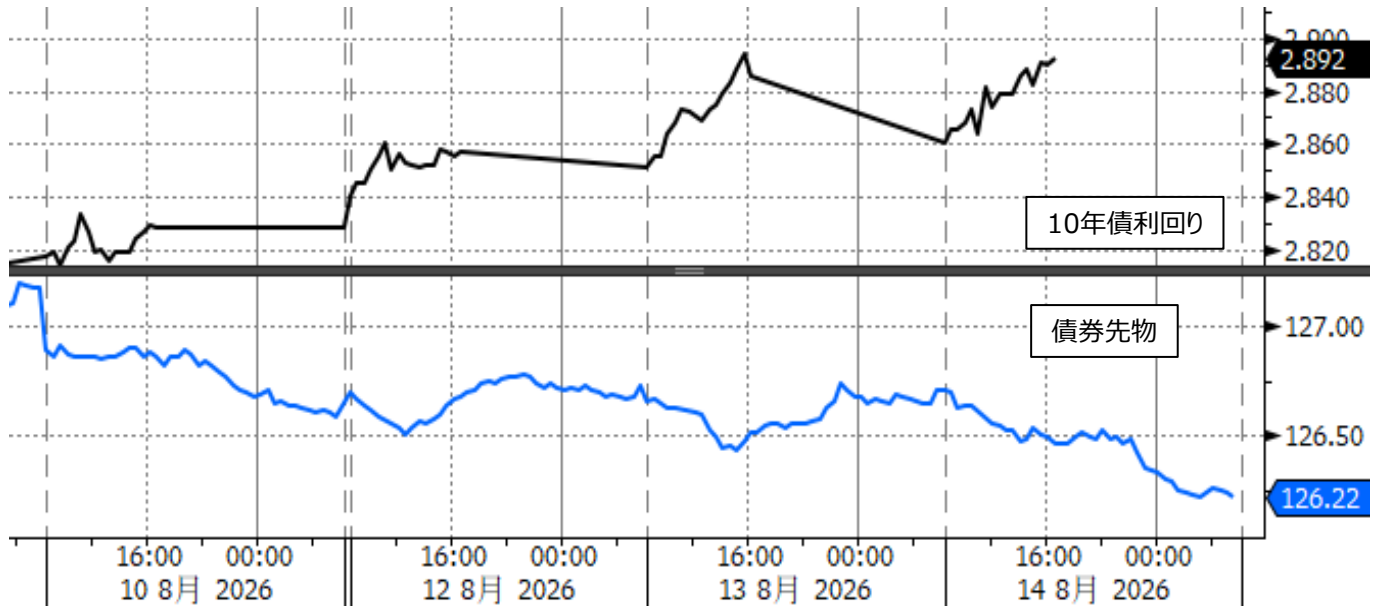
今週のレンジ予想（USD/JPY）

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
堀広太	158.00 – 161.00	19日のFOMC議事要旨に注目。市場の注目は8月末のジャクソンホールに向かっており、値動きは限定的と予想。
松榮俊樹	158.00 – 160.50	日銀の9月利上げも意識されてはいるが円買いは限定的。為替介入警戒感もあることで、上値・下値ともに重い展開。

2. 円金利相場概況

日銀の利上げ早期化懸念から金利上昇

10年国債金利と債券先物（1週間の値動き）



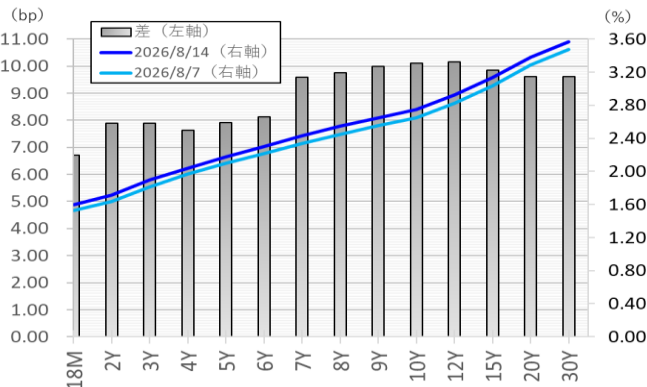
GJGB10 Index (日本国債10年単利) IGB.F 30 日 30 分 Copyright© 2026 Bloomberg Finance L.P. 17-Aug-2026 07:55:58

コメント

(出所) Bloomberg

先週のJGB市場は、日銀の利上げ観測を背景に売り優勢の展開となった。週初の8月10日は米雇用統計の弱い結果を受けて朝方は買いが先行したものの、日銀7月会合の「主な意見」で追加利上げに前向きな内容が確認されたことから方向転換。短中期ゾーンを中心にベアスティーピングが進行し、先物は前日比8銭安で終了した。共同通信からの日銀利上げ早期化の観測記事が報道されたことを背景に12日は先物が前日比33銭の大幅安となり、5年ゾーンを中心に売りが優勢となった。13日も日銀の早期利上げ観測や超長期債の戻り売りが重石となり、Bloombergが「日銀が10月までの利上げを視野」と報じたことで売りが加速。10年債利回りは2.87%まで上昇した。週末14日は米PPIの下振れで米金利が低下したことを受け、朝方は金利低下でスタートしたものの、地合いが悪く金利は上昇気味で推移。今週は、原油価格の高止まりが引き続き世界的なインフレリスク要因として意識されていることに加えて、火曜日に5年、木曜日に30年の国債入札を控えており、上値の重い展開を想定する。(市場商品部/金利G)

金利スワップ変化（1週間）



10年円金利スワップ推移（5年間）

(%)



(出所) Bloomberg

今週のレンジ予想（10年国債利回り）

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
小野口裕美子	2.83% - 2.95%	原油先物価格や米金利に連動しながらも、追加利上げ観測により円金利は低下余地が乏しい状況継続。
飯野りさ子	2.83% - 2.95%	日銀の早期利上げ観測を背景に円金利は上昇圧力がかかりやすい展開と予想する。5・20年債入札やドル円の動向に注目。

3. 今週のトピックス

米独金利差と日米協調介入からみるユーロ/円相場の方向性

欧米高金利と基調的構造によりユーロ高円安継続か、それとも日米協調介入が潮目を変えるのか

今般、欧米中央銀行は中東情勢悪化に伴う粘着的インフレ懸念を背景に、政策金利の据え置きや利上げを示唆している一方で、日本銀行は利上げの遅れ、いわゆるビハインド・ザ・カーブ懸念が意識され円安トレンドが続いている。本稿では、ユーロ/ドルと米独10年国債スプレッドの関係、そして日米協調介入の2つの観点から、今後のユーロ/円の方向性を考察する。

■ユーロ/ドルと米独10年国債スプレッドの関係

ユーロ/ドルと米独10年国債スプレッドの推移（図1）を見ると、金利差拡大局面ではユーロ安・ドル高、縮小局面ではユーロ高・ドル安と一定の順相関が伺える。昨今、中東情勢悪化に伴う原油高の影響でインフレ懸念が続いており、政策金利の据え置きや利上げが織り込まれ、米独10年国債利回りは調整を伴いながらも高水準で推移している。

一方、ドイツはロシアによるウクライナ侵攻や米国政府の欧州への関与の変化など、欧州を取り巻く安全保障環境の変化を踏まえ、防衛費を2030年に向けて大幅に増額する方針を示しており、長期的には防衛・インフラ投資が成長・インフレを押し上げる可能性がある。図2の通り、ドイツは厳格な財政規律により相対的に債務比率が低い。これを踏まえれば、中長期的な成長・インフレを通じた米独金利スプレッドのタイトニング、それに伴うユーロ高につながる可能性を意識しておきたい。

以上のことから、ユーロ/ドルは、欧米政策金利の高位安定と米独金利スプレッド縮小、EUR資産への分散投資等を背景に、緩やかなユーロ高となることが考えられる。

【図1】ユーロ/ドルと米独10年国債スプレッドの関係



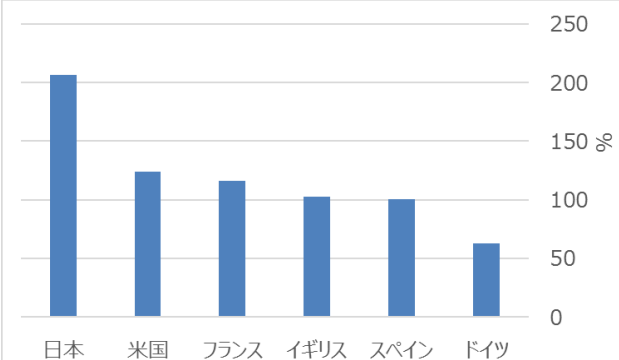
（出所：Bloombergよりあおぞら銀行が作成）

■日米協調介入の振り返りと追加実施の可能性

2026年7月31日米国時間に、米国政府はユーロ売り円買いの日米協調介入を実施したと報道されており、図3の通り、対ドル・対ユーロで6〜7円程円高が進行した。

今回の協調介入で注目されたのは、米国側が強いドルを維持しつつ円安是正に一定のコミットメントを示した点である。米国政府は、円安がアジア通貨安を通じて新興国の金融安定を損なうリスクや、米国債金利上昇を通じて米国内の金融環境を過度にタイト化させるリスクを意識しつつ、ドルの基軸通貨としての役割を維持したいと考えているとみられる。「円は非常に過小評価されている」といったベッセント米財務長官からの発言もあり、ドル/円が160円台で推移する局面では、追加の協調介入による一時的な円高進行のリスクに注意しておきたい。ただドル/円のレンジを切り下げることには成功したものの、根本的な円安要因は変わっていないため、潮目を変えるほどのインパクトは考えづらい。

【図2】主要国におけるGDP比の政府債務残高（2025年時点）



（出所：IMF公表データよりあおぞら銀行が作成）

■EUR円相場の方向性

以上のことから、ユーロ/ドルは緩やかなユーロ高がベースシナリオとなる。他方、ドル/円は日米金利差の縮小を伴いつつも、日銀の慎重な利上げと基調的円安構造から円安トレンドが崩れにくく、為替介入を意識しながら160円を挟んだ値動きが想定される。よって、ユーロ/円はユーロ高バイアスを伴った高値圏維持がベースシナリオとなる。

一方、リスクシナリオには注意が必要である。直近の米雇用統計は弱含んでいるほか、インフレ指標も予想比下振れが続いている。2024年夏頃の為替介入・米国経済腰折れ・本邦政策金利のサプライズ利上げと同様のリスクシナリオには留意が必要。また、フランスでは年金改革の凍結や左派勢力への譲歩を背景に財政再建のハードルが高まっており、EUの財政規律違反に伴う過剰赤字は正手続きの対象にもなっている。成長が期待ほど回復しないまま財政再建が遅れる場合、フランス国債利回り上昇と独仏スプレッド拡大を通じてユーロ全体の不安材料になり得る点には注意が必要だろう。（市場営業部/渡邊）

【図3】為替レート推移



（出所：Bloombergよりあおぞら銀行が作成）

ご留意事項

- ・本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の申し込みでも、取引締結の推奨でもなく、売買若しくは何らかの取引を行うことを助言したり、または勧誘したりするものではありません。
- ・本資料の内容につき、当行はその正確性及び完全性を保証するものではなく、一切の責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身のご判断をお願いします。
- ・本資料に基づき、お客さまが投資のご判断をされた結果に基づき生じた損害・損失等については、当行は一切責任を負いません。
- ・本資料は著作物であり、著作権法により保護されております。無断で本資料の全部または一部を複製、送信、転載、譲渡および配布することはできません。
- ・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも当行の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。



商号：株式会社あおぞら銀行（登録金融機関 関東財務局長（登金）第8号）
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会